

平成 28 年 6 月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

フリーゲージトレインの開発の遅れに伴い、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームに九州新幹線西九州ルート検討委員会が設置され、武雄温泉～長崎間が完成する平成 34 年度における開業の在り方について議論されてきたところです。

そもそも、九州新幹線西九州ルートについては、

- ・現在、在来線である長崎本線の肥前鹿島を通る路線が、嬉野温泉、新大村を通る路線に振り替わるものであること
- ・新幹線の一番の整備効果は、時間短縮効果ではありますが、博多～長崎間で期待されている 28 分という時間短縮効果の大半は長崎県側にもたらされ、例えば佐賀駅では、2 分程度と時間短縮効果がほとんど見込めないこと

など、全国の整備されている新幹線において、本県の立場は、特殊、かつ、厳しい状況であります。このような状況の中、並行在来線の取扱いについて県を二分するような議論を経て、実質約 225 億円という大きな負担を受け入れてまでも、本県が西九州ルート着工を苦渋の思いで決断した理由は、フリーゲージトレインの全線開業によって、山陽新幹線と博多駅で直結し、関西・中国方面からの誘客などによる経済波及効果を期待したからでありました。

このような背景の中、フリーゲージトレインの開発が遅れ、フリーゲージトレインによる全線開業が実現できない場合には、本県が期待した経済波及効果が得られない状況になることから、容易に受け入れられるものではありませんで

した。

そこで、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームの九州新幹線西九州ルート検討委員会において、本県の置かれている状況や考え方、そして私自身の思いなどについて改めて説明しました。

一方、武雄温泉～長崎間の新線区間が平成34年度に完成する予定であり、当該沿線自治体において開業に向けたまちづくりが進められています。このような状況であることに鑑み、本県として苦渋の状況の中で、平成34年度の暫定開業が議論されるのであれば、本県として特に考慮いただきたい事項として、

- ・暫定的な開業のために必要となる追加負担を本県に求めないこと
- ・長崎本線の特急本数を、一定程度確保すること
- ・肥前山口～武雄温泉間の全線複線化工事を確実に実施すること

などを要請し、一定の配慮をいただきました。このようなことから、武雄温泉駅での対面乗換方式による暫定開業を受け入れるという判断をいたしまして、去る3月29日に関係者と合意したところであります。

今後、県といたしましては、国に対してしっかりと、フリーゲージトレインの開発を進めるよう求めていくとともに、県議会をはじめ、市町や関係機関とも連携を図りながら、開業効果が十分に発揮できるよう取り組んでまいります。

平成28年9月定例会県議会

次に、九州新幹線西九州ルート整備について申し上げます。

西九州ルートに導入予定であるフリーゲージトレインにつきましては、国において車軸等の不具合対策を施した改良台車による検証試験が実施されていますが、現在、試験に使用した台車を分解して、詳細な調査・分析を行っている段

階となっており、今後、軌間可変技術評価委員会において、検証試験結果が評価されることとなっています。県といたしましては、今後とも、フリーゲージトレインの開発状況等について、注視してまいります。

平成 28 年 11 月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルート整備について申し上げます。

今年 3 月、フリーゲージトレインによる全線開業を目指すことを前提に、関係者間において、武雄温泉駅での対面乗換方式による暫定開業が合意されました。

フリーゲージトレインにつきましては、国において、不具合対策の検証試験が行われてきました。このような中、11月18日に技術開発に関する評価を行う「軌間可変技術評価委員会」が開催され、これまで実施された室内試験では、耐久走行試験に移行する条件が満たされていないことから、検証走行試験等を実施した上で、来年初夏をめどに改めて評価し、耐久走行試験を再開したい、とされたところです。

検証試験が順調に進み、耐久走行試験が再開されることを期待していたことから、この結果は非常に残念に思います。

国は、この半年の遅れによって、開業までのスケジュールに変更がないよう取り組むと説明されていますが、西九州ルートの開業に影響が出ないように、しっかりとフリーゲージトレインの開発を進めていただくことを、国に求めてまいります。

平成 29 年 2 月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルート整備について申し上げます。

昨年3月、国などの関係者との合意により、フリーゲージトレインによる全線開業を目指すことを前提として、武雄温泉駅での対面乗換方式により、平成34年度に暫定開業することが確認されました。

暫定開業後は、新幹線及び在来線の全ての列車が、武雄温泉駅に停車し、嬉野温泉駅(仮称)が新設される効果をできるだけ高められるよう、地域の方々とともに、しっかりと取り組んでまいります。

フリーゲージトレインにつきましては、国において、技術開発が進められているところですが、昨年11月に「軌間可変技術評価委員会」において評価を受け、現在、九州新幹線鹿児島ルート及びJR鹿児島本線において検証走行試験が実施されており、去る2月15日に私自身も試験車両に試乗したところです。

今後は、検証走行試験の結果や実用化に向けたコスト削減策の検討結果について、初夏を目処に技術評価委員会で評価し、耐久走行試験の再開が判断されることとなっていることから、引き続きフリーゲージトレインの開発状況について注視してまいります。